

日本家庭科教育学会 2017（平成 29）年度例会

日本家庭科教育学会
会長 荒井 紀子

日本家庭科教育学会 2017 年度の例会を下記の要領で開催いたします。
会員の皆様、どうぞ多数ご参加くださいますようお願い申し上げます。

日時：2017 年 12 月 3 日（日） 13：00～16：30（受付は 12：30 から）

場所：東京家政大学 板橋キャンパス（東京都板橋区加賀 1-18-1）

*JR 埼京線十条駅下車徒歩 5 分

タイムスケジュール

受付	12：30～	大学 16 号館 2 階
研究発表	13：00～14：20	3 階 163A, 163B, 163C, 163D, 163E
学会特別研究最終報告会	14：30～16：30	2 階 162B

理事会 9：30～11：00（大学 16 号館 2 階 162D 講義室）

地区会代表者会議 11：15～12：15（大学 16 号館 2 階 162D 講義室）

- ★研究発表および課題研究最終報告会の発表者でパワーポイントご使用の方は、12：10 から 12：30 までの間に各会場にてデータのインストールを行ってください。
- ★口頭発表の時間は 15 分、質疑応答の時間は 5 分です。
- ★口頭発表のための資料は、パワーポイントおよび印刷物とします。
- ★配付資料は、発表番号と氏名を明記し、100部用意し、発表直前に会場係りにお渡しください。会場係りが参加者に配布します。余った資料は会場内の資料置き場に置いておきます。
- ★業者展示は、2階162C 講義室において12:30～16:40の間に行われます。

参加費：正会員 1,800 円 学生会員 1,000 円
 非会員 2,000 円 学生非会員 1,500 円

上記に関する問い合わせ先： 日本家庭科教育学会事務局
〒112-0012 文京区大塚 4-39-11 仲町 YT ビル 3 階
Tel & Fax 03-3942-7885
E-mail kateika@amethyst.broba.cc

I. 研究発表 (13:00~14:20)

第1会場 (163A講義室)

座長 小野寺 泰子 (宮城教育大学)

- | | | | |
|-----|--|---------------------------|----------------|
| 1-1 | 小学校家庭科「快適な被服と住まい」領域における「すずしい暮らし方・暖かな暮らし方」に関する研究
- その1 住まい - | 和歌山信愛女子短期大学
学生生活文化学科 | ○千森督子 |
| 1-2 | 住生活における音環境に関する1/10住宅組立模型を用いた授業実践 | 長岡造形大学
新潟大学 人文社会・教育科学系 | ○広川智子
飯野由香利 |

座長 西原 直枝 (聖心女子大学)

- | | | | |
|-----|--|-----------------|--------|
| 1-3 | 学習内容や方法別にみた防災教育の有効性の検討 | 新潟大学 人文社会・教育科学系 | ○飯野由香利 |
| 1-4 | 中学校・高等学校家庭科における防災の視点を取り入れた学習
- 山形県内の家庭科教員対象調査より - | 山形大学地域教育文化学部 | ○石垣和恵 |

第2会場 (163B講義室)

座長 川邊 淳子 (北海道教育大学旭川校)

- | | | | |
|-----|---|---|----------------|
| 2-1 | 家庭科における情報化に対応した授業の検討
- ICT活用の可能性 - | 山梨県笛吹市立春日居小学校
山梨大学大学院 | ○成島勇樹
志村結美 |
| 2-2 | 中学校家庭科「家庭生活」におけるロールプレイングを方法とした実践研究に関する現状と課題 | 兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科 (博士課程院生)
兵庫教育大学大学院学校教育学研究科 | ○村田晋太郎
永田智子 |

座長 藤田 智子 (東京学芸大学)

- | | | | |
|-----|----------------------|-----------------------------|--------------|
| 2-3 | 中学校家庭科における教員配置の実態と課題 | 宇都宮大学大学院教育学研究科
宇都宮大学教育学部 | ○星良美
赤塚朋子 |
|-----|----------------------|-----------------------------|--------------|

- | | | | |
|-----|---|-------------|-------|
| 2-4 | 高等学校家庭科教員の教育内容・指導に関する認識・実態
- 2002年調査との比較から - | 川口短期大学こども学科 | ○近藤清華 |
|-----|---|-------------|-------|

第3会場（163C講義室）

座長 鈴木 真由子（大阪教育大学）

- | | | | |
|-----|---|--------------------------------|------------------------|
| 3-1 | 小学校家庭科において育成される資質・能力の分析
- 住生活領域の換気に関する授業実践を通して - | 東京学芸大学教育学部
東京学芸大学名誉教授 | ○萬羽郁子
藤田智子
大竹美登利 |
| 3-2 | 学びの共有を目指した授業デザインの検討
- 調理実習におけるウェアラブルカメラの活用 - | お茶の水女子大学附属中学校（元筑波大学附属聴覚特別支援学校） | ○有友愛子 |

座長 福井 典代（鳴門教育大学）

- | | | | |
|-----|--|--|------------------------|
| 3-3 | 環境配慮への行動力と生活文化の継承・創造力を育てる家庭科教育の試み
- 冬季長野県における中学生向き指導法の開発と検証 - | 信州大学大学院教育学研究科
長野県朝日村立朝日小学校
信州大学教育学部附属長野中学校 | ○福田典子
長谷川美紀
小林里美 |
| 3-4 | 中学校家庭科における日常着の手入れの指導内容の検討 | 大分大学教育学部 | ○都甲由紀子
財津庸子 |

第4会場（163D講義室）

座長 伊波 富久美（宮崎大学）

- | | | | |
|-----|-------------------------------|---|---------------------------------------|
| 4-1 | 家庭科教育養成における「家庭看護」学習教材の効果 | 東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科（院生）
東京学芸大学教育学部
千葉大学教育学部
埼玉大学教育学部
島根大学教育学部 | ○叶内茜
倉持清美
伊藤葉子
吉川はる奈
鎌野育代 |
| 4-2 | 生活困窮世態の子どもと家庭への金銭と時間に関する地域の実践 | 佛教大学教育学部 | ○三沢徳枝 |

座長 吉本 敏子 (三重大学)

- | | | | |
|-----|---------------------------------------|---|----------------|
| 4-3 | 高校生の地域社会に対する意識調査
- 学校と自宅の地域の比較から - | 横浜国立大学大学院教育学研究科 (院生)
横浜国立大学教育学部 | ○城間若奈
佐桑あずさ |
| 4-4 | 高校生の認識・実態に基づいた地域社会への参画を促す家庭科学習課題の開発 | 兵庫教育大学大学院学校教育研究科 (院生)
兵庫教育大学大学院学校教育研究科 | ○前田まどか
永田智子 |

第5会場 (163E講義室)

座長 渡瀬 典子 (岩手大学)

- | | | | |
|-----|--|--|-----------------------|
| 5-1 | マルタ共和国における家庭科教育の現状 | 京都女子大学発達教育学部 | ○表真美 |
| 5-2 | グローバル時代における多文化共生の視点を導入した家庭科教育
- 中学校技術・家庭科家庭分野における食文化の授業開発 - | 常葉大学大学院初等教育高度実践研究科
金城学院大学生活環境学部
千葉大学教育学部 | ○星野洋美
上野顕子
伊藤葉子 |

座長 室 雅子 (椋山女学園大学)

- | | | | |
|-----|-----------------------------|---------------------|---------------|
| 5-3 | 理系女子高校生のキャリアパス形成の構造 | 東京都立戸山高等学校 | ○荒井きよみ |
| 5-4 | 家庭科におけるシティズンシップ教育とキャリア教育の検討 | 株式会社長野銀行
山梨大学大学院 | ○佐藤安純
志村結美 |

Ⅱ. 学会特別研究委員会「家庭科未来プロジェクト」最終報告会 (14:30～16:30) 162B講義室

コーディネーター 中西 雪夫 (佐賀大学、プロジェクト副代表)
コメンテーター 堀内かおる (横浜国立大学)
永井 敏美 (富山県立砺波高等学校)

「家庭生活に関わる意識や高等学校家庭科に関する全国調査」

プロジェクトメンバー (*は代表)

荒井紀子* 中西雪夫 小川裕子 河野公子 財津庸子 鈴木民子
鈴木真由子 高木幸子 野中美津枝 日景弥生 藤田昌子

趣旨:

日本家庭科教育学会では、設立60周年(2017年)を記念して、2015年12月に特別研究委員会「家庭科未来プロジェクト」(理事・監事計11名)を発足させ、2016年度に、高校生と社会人を対象とした2種の全国調査を実施してきました。高等学校家庭科の男女必修開始から22年が経過し、また新学習指導要領の改訂が進むなか、家庭科が育む資質・能力や教科の独自性を明らかにし、それを広く社会に発信することを目指しています。

例会では、調査の全容と結果を報告し、その成果や課題を会員と共有するとともに、本学会における今後の取組みについて皆さんと一緒に考えたいと思っております。

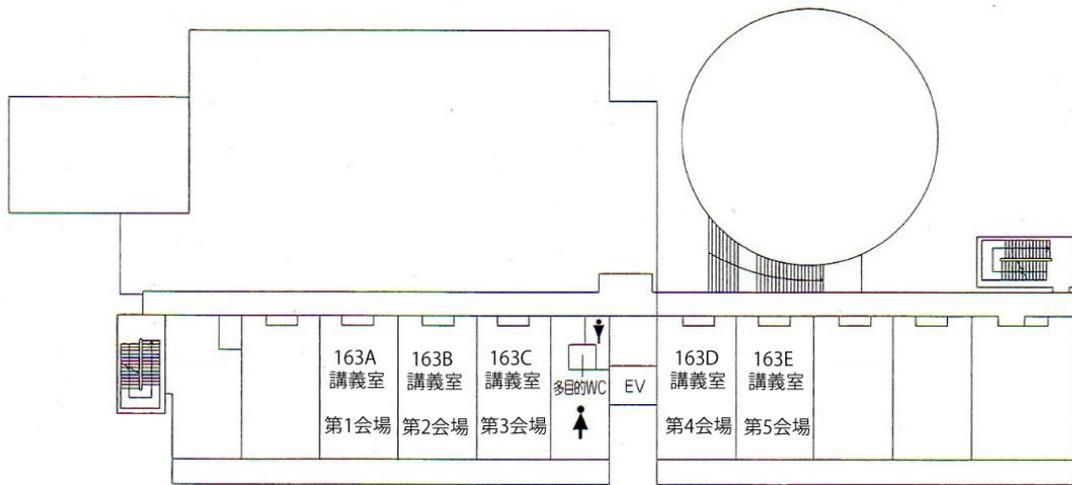
(1) 社会人調査: 男女必修家庭科実施後22年の成果と課題

- ① 数量的データ分析 報告者 藤田 昌子
- ② 自由記述内容の分析 報告者 高木 幸子

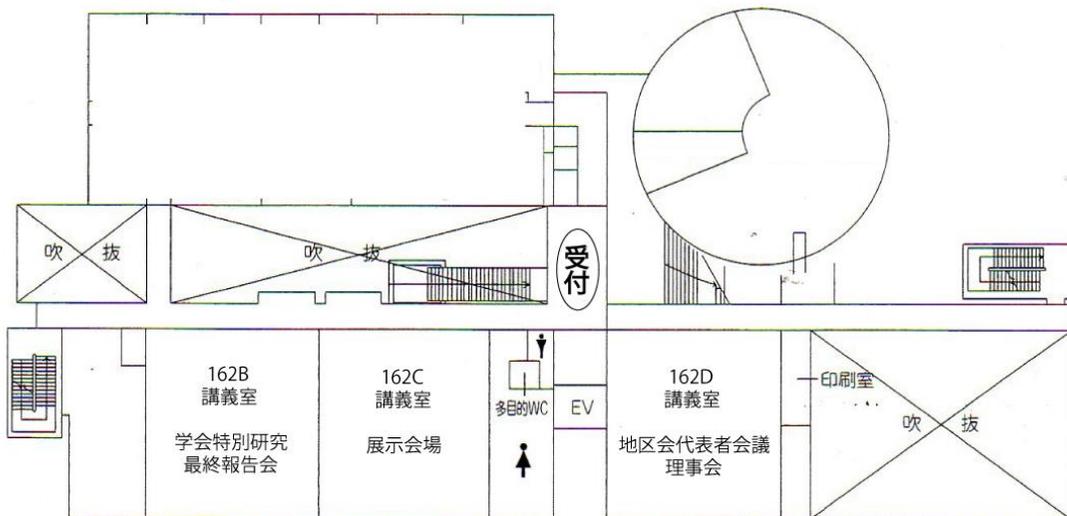
(2) 家庭科の意義・役割についての高校生の意識調査

- ① 数量的データ分析、自由記述分析 報告者 野中美津枝

会場配置図(大学 16号館)



(3階)



(2階)

